



消防職員特別教育 水難救助科〔第33期〕

6月24日（火）から7月11日（金）まで、県内10消防本部（局）から推薦を受けた23人の消防職員が水難救助科第33期生として本校へ入校し、教育訓練を受けました。

昨年夏期の本県における水難事故は18件発生し、全国で6番目に多く、ここ数年、発生件数は高く推移しています。広範囲に渡る海岸と一級河川を含む多くの河川を有する本県にとって、水難救助業務は大変重要な任務の一つです。

本課程では、潜水に関する基礎的な知識から水難救助のプロフェッショナルとして必要となる応用的な技術までを、海、河川、潜水に係る気圧障害など各ジャンルのスペシャリストの講師を招き、水難救助技術の習得に務めました。



（担当教官コメント）

水難救助科第33期の皆様、14日間に渡る教育課程お疲れ様でした。天候にも恵まれ、全ての実科訓練を実施することができました。プールの水温が30℃を超える猛暑の中で、技術・体力とともにとっても厳しい訓練が続きましたが、大きな事故や体調不良者もなく修了することができたことは、学生一人ひとりが、自己の体調管理を始め、安全管理を徹底した成果だと思います。

学生は、座学や訓練に対して、自ら課題を見つけるなど、「学ぶ姿勢」を強く感じることができました。事例研究では、各消防本部が抱える現場の課題のほか、水難救助隊の訓練や運用についての課題を共有し、意見を交わし、訓練では各々のレベルに応じた課題を見つけ、学生同士や各分野のプロフェッショナルである講師に質問し、知識や技術を吸収しようとする場面が多く見られました。こうした学生の姿勢は、同じ消防職員である私に対しても、とても頼もしく、安心感を与えてくれるものでした。これからも水難救助科第33期の仲間、講師を始め、関わった全ての方々との出会いを大切に、学んだことを活かし、それぞれの所属（場所）で活躍して頂きたいと願っています。

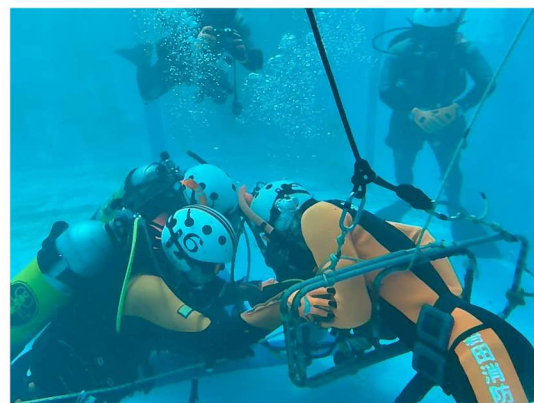
最後に水難救助科第33期生を御指導くださいました講師の方々を始め、御協力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。

教務課主査 浅井 光貴（袋井消防本部から派遣）

消防学校プールでの訓練（ダイビングベル）



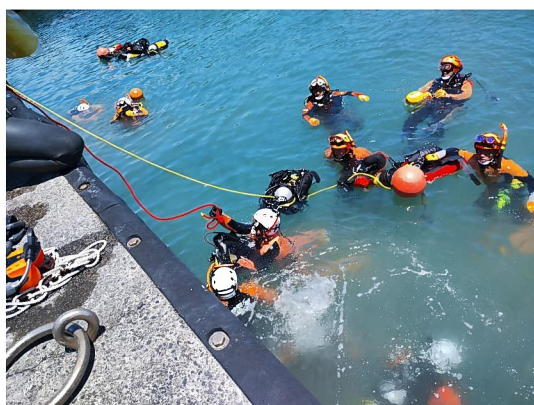
清水海上保安部による訓練



富士川でのナチュラルアクションによる訓練



海洋での訓練（三保・用宗）



初任科第 96 期第 2 回野外訓練

活動方針：安全管理の徹底、任務遂行

全体目標：全員完歩・精神一到

第 2 回野外訓練は、南海トラフ巨大地震の発生を想定して実施するものです。

消防職員として必要である強靱な体力・精神力を養成するとともに、消防の任務である災害時における要救助者の救出を目的として、学校訓練施設における各種訓練及び校外での夜間強歩訓練を組み合わせた 3 部構成で計画し実施しました。

1 部訓練は、通常時の日中業務をイメージして、本校において各種訓練を実施しました。救助訓練では、各種搬送法及び重量物除去訓練。消防活動訓練では、土嚢作成訓練及び長距離中継訓練。応用訓練では、応急はしご救出訓練を実施しました。

2 部訓練は、巨大地震が発生し、緊急消防援助隊として出動要請がかかったことを想定した訓練です。車両で被災地へ移動した後、夜間から早朝にかけて約 20 kg の装備を背負いながら徒歩で活動場所へ移動することを想定し、富士マリンプールから本校までの約 30km を踏破しました。

3 部訓練は、活動場所である現場（消防学校）到着後の、現場活動をイメージした災害対応訓練を実施しました。

初任科第 96 期 第 2 回野外訓練の概要

- 実施日時
令和 7 年 8 月 7 日（木）9：00 ～
8 月 8 日（金）7：30
- 訓練内容・場所
第 1 部 消防学校訓練施設で各種訓練
第 2 部 夜間強歩訓練
（富士マリンプール～消防学校：約 30km）
第 3 部 現場想定災害対応訓練
- 日程表
1 日（木）
6：15 起床
6：30 日朝点呼・早朝体育（資器材準備）
7：30 朝食
8：20 日直寮直交代
9：00 校長訓示・各種訓練開始
14：20 各種訓練終了 夕食・入浴
17：00 消防学校出発（バス）
17：50 富士マリンプール到着
18：23 夜間強歩訓練開始
2 日（金）
05：06 帰校
05：50 災害対応訓練開始
06：50 訓練終了



第 1 部訓練

救助訓練



消防活動訓練



応用訓練



第2部訓練

富士マリンプール

出発 18:23

到着 19:09



3.02km

富士と港の見える公園

出発 19:30

到着 20:33



3.80km

田子の浦みなと公園

出発 20:51

到着 21:24



2.95km

入道樋門公園

出発 21:47

到着 22:24



2.70km

富士川緑地公園

出発 22:45

到着 23:15



2.50km

日の出公園

出発 23:47

到着 00:31



2.90km

新蒲原駅

出発 00:53

到着 01:48

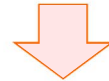


3.70km

港北消防署庵原分署

出発 02:19

到着 02:53



2.50km

由比駅東公園

出発 03:13

到着 03:57

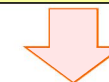


3.0km

薩埵峠駐車場

出発 04:20

到着 05:06



3.50km

消防学校



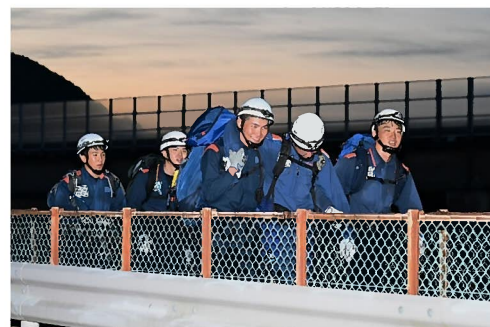
主担当山口教官から総代へ校旗を託す



消防学校へ向けて進み続ける



休憩時間は身体のケアと仮眠



班員で助け合いながら前へ



第2部に参加した 134 人全員で無事到着

第3部訓練



第1回野外訓練では、体調不良による多数の訓練不参加者、途中リタイア。最終目標地点への未到達と目的達成に遠く及ばない結果となり学生一人ひとりが自分達の不甲斐なさを恥じていることは感じ取れていました。

訓練1か月前に東日本大震災についてのドキュメント番組を視聴するところから第2回野外訓練はスタートしました。被災地では未曾有の大規模災害に為す術もなく、消防隊がいつ到着するか分からない絶望の中助けを待つ住民、止むことない助けを呼ぶ声に必死に対応する被災消防本部。私たちの向かう先には到着を必死に待っている人がいることをイメージして、自分自身に何ができるのかを考え、考え出した消防官としての自分の存在意義をこの訓練で示すように伝えました。当日の第2部訓練に向けて消防学校を出発する際に屋内訓練場の指令台に立ち学生の表情を見た時、大きなリュックを背負いながらも真っ直ぐに凛々しい顔で私を見つめる姿を見た時に、彼らのこの訓練に臨む姿勢に胸熱くなるものがありました。第2部訓練では、遅れを取りそうな学生に対し、声を掛け合い、時には引っ張り、後ろから押し一步一步前に進んでいく姿が見られ、一人のリタイアも、遅れる者も出すことなく消防学校へ到着することが出来ました。消防学校到着後の第3部訓練では、満身創痍の中、必死に与えられた任務に取り組む姿は消防官の目になって来たなと感じることが出来ました。第2回野外訓練担当教官として最後に指令台に立った際、多くの学生が達成感と自信に満ちた表情をしており、彼らの成長をととても感じる事が出来た素晴らしい光景でした。

教務課主査 鈴木 雅人（富士山南東消防本部から派遣）

白鳥校長の一言（時事雑感）

消防殉職者と戦争

今年で終戦 80 年を迎えました。節目となった本年の終戦記念日の前後には、例年にまして戦争に関する特集が組まれましたが、消防殉職者と戦争の関わりについて、ここに謹んでご紹介させていただきたい。

本校の敷地内には、旺盛なる消防精神を発揮して任務を遂行中、尊い一命を捧げられた消防殉職者の慰霊碑があります（下段写真参照）。また、各位の殉職時の状況を記録した顕彰録が第 10 代消防学校長石田貞義氏の献身的な努力によってとりまとめられ、今に残されています。この資料によると、明治以降の本県消防殉職者 235 名中、68 名が空襲時にお亡くなりになられ、うち 65 名は住民の避難誘導や消火活動中に爆弾・焼夷弾等の直撃やその爆風を受け、残り 3 名は不発弾処理中に殉職されたという。

とりわけ昭和 20 年 6 月 19 日から 20 日にかけての静岡大空襲では、一夜にして 18 名もの方々が亡くなられている。このほか、同年 4 月 30 日や 6 月 18 日の浜松空襲では、それぞれ 11 名、12 名と大切な人命が失われている。前途有為な 20 代から 30 代の殉職者も少なくない。紙面の都合、すべてを子細に記すことが叶いませんが、今に生きる私たちは、郷土の礎となられた先人の崇高な犠牲の上にあると思わざるを得ません。そして、過酷な状況下に一身を顧みず住民の命を守るために尽力された志を、確かに受け継いでいかなくてはいけないとも感じます。

翻って現在に目を転じると、最大の課題は「消防活動の安全対策」といって過言ではありません。去る 8 月 18 日には、大阪市で 2 名の消防隊員を失う痛ましい火災が発生したばかりですが、事故を未然に防止し、安全管理に万全を期して、これ以上殉職者を出さないことが何より重要になっています。本校がその安全教育の一翼を担っていると思うとき、改めて身が引き締まる思いでいっぱいです。こうした使命を心に刻みつつ、謹んで故人の遺徳を偲び、心から哀悼の誠を捧げたい。合掌



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1
☎: 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

